

第19回「中村元東方学術賞」授賞理由

受賞者 宮元 啓一 國學院大學教授

第19回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員長 前田専學（東方研究会理事長）

2009年10月10日インド大使館

宮元啓一博士は、昭和二十三（一九四八）年のお生まれで、昭和四十五年五月東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業、昭和四十七年三月に東京大学大学院人文科学研究科修士課程終了、昭和五十年同大学院博士課程を終えられ、平成十年に同大学より、博士（文学）の学位を取得され、現在は國學院大學教授であります。

宮元博士は、東京大学大学院において、中村元先生の最後の指導を受ける幸運に恵まれ、インドの実在論的多元論哲学を主張した *Vaiśeṣika* 哲学、とりわけ、初期 *Vaiśeṣika* 哲学の研究に専念され、さらに一九九四年～一九九五年にわたって、インド・Poona 大学の V.N. Jha 教授の許で、斯学の研鑽を積まれました。

宮元博士は、まず修士論文で *Vaiśeṣikasūtra* の概括的な研究をされ、その後、数2の発生 (*dvitvotpatti*) のメカニズムを研究し、そのなかでとりわけ重要なテクニカル・タームである *apekṣābuddhi* が、従来いわれていたような「待つ主体としての知識」 (*cognition as an expecting subject*) ではなく、「数2などの動力因としての知識」 (*cognition as an efficient cause of number two and so on*) であることを明らかにされました。その後も、*Vaiśeṣika* 哲学理解にとって要となる多くの論点を研究し、きわめて難解な論点についても解明されるにいたりしました。

こうした研究をもとにして、一九九〇年代の半ば、『勝宗十句義論』の研究に取り組まれました。この論書は、玄奘訳による漢訳しかなく、しかも首をかじげざるをえない文言に満ちており、宇井博士、Dr. Frauwallner、金倉博士も確言を避けてきた文献でした。宮元博士は、サンスクリット語による *Vaiśeṣika* 関連文献を精査し、その結果、漢訳『勝宗十句義論』が誤訳と写誤に満ちていることを明らかにして、この漢訳論書を徹底的に校訂し、そこからサンスクリット語テキストの再構成を行い、和訳と英訳を發表されました。

その後、従来、『勝宗十句義論』と *Padārthadharamasaṃgraha* の成立の先後問題について錯綜していた議論を整理し、『勝宗十句義論』は五世紀初めの成立、

Padārthadharamasaṃgraha はそれより百年後の六世紀初めの成立であることを明らかにされました。

以上の研究の輝かしい成果は、数々の日本語の論文として発表され、また英文の二著書 *The Metaphysics and Epistemology of the Early Vaiśeṣikas* (Bhandarkar Oriental Series No. 二八,一九九六)や、*Daśapadārthī* (『勝宗十句義論』) (Rinsen Book Co., 二〇〇七)、それに日本語の訳注『ヴァイシェーシカ・スートラ』(臨川書店、二〇〇九)としても公刊されました。これらは Vaiśeṣika 哲学研究に新生面を開く画期的・独創的な研究であります。

宮元博士の本領は、インド哲学にあります。仏教にも関心を向けられ、『わかる仏教史』(春秋社、二〇〇一)、『般若心経とは何か』(春秋社、二〇〇四)、『仏教の倫理思想』(講談社、二〇〇六)など、数多くの出版があり、時として仏教研究者の意表を突くような独創的な見解を発表されております。

インド哲学は、西洋的思惟に慣れた一般の方々には近づきがたいものがあり、一般読者向きにするには、西洋哲学の深い学殖が必須であり、容易なことではありません。しかし博士は、その努力を常に続けておられ、『インド哲学七つの難問』(講談社、一九三九)などとして、その成果を出版され、昨二〇〇八年には、その決定版ともいふべき『インド人の考えたこと——インド哲学思想史講義』を第一巻とする、『シリーズ・インド哲学への招待』全五巻を春秋社から出版されました。インドが、近年注目されている BRICs の一員として、経済的発展を遂げ、国際的発言力を高め、日本人に深いインド理解が要請されている今日、正に時宜にかなった出版であると思います。

以上のように、インド哲学・仏教学の領域における長年にわたるご研究の成果は、まことに輝かしいものがあり、そのみならず(財)東方研究会・東方学院の維持・発展に対するご貢献は、中村元東方学術賞にまことに相応しいものと判断され、今回の授賞となった次第であります。